

《4月の番組ガイド》

.....鳥取市行政番組.....

「こんにちは鳥取市です」【放送】毎週金・土



鳥取市の施策や事業の取り組み状況、各種行事、お知らせを紹介します。

4月19日(金) 番組リニューアル!

【話題・特集】

▷「砂の美術館」第6期展示  
砂で世界旅行・東南アジア編



昨年放送の「砂の美術館第5期展示 砂で世界旅行・イギリス編」

▷もちがせ流しびな行事

▷鳥取市誘致企業紹介

特別番組「鳥取自動車道全線開通記念フォーラム」

3月24日に開催された、記念講演とシンポジウムの模様。  
【放送】3月31日(日)～4月4日(木) 14:00～

静止画文字情報

「鳥取市からのお知らせ」【放送】毎週水・木・金・土



イベント・募集・相談などの各種お知らせを、文字画面と音声でご案内します。

いなばぴよんぴよんネット  
自主制作番組

農業番組「いなばアグリタイム」【放送】毎週水・木

稲作の準備が始まった様子や、「とっとりふるさと就農舎」「子ども農業塾」などの話題をお送りします。

地域情報番組「とっとりウオーキング」【放送】毎週日・月

入学式や入園式の様子や、市内各地の春のまつりなどを紹介します。

生活情報番組「ぴよんぴよんワイド」【放送】毎週火

子育てや健康をテーマに、暮らしに役立つ情報や話題をお届けします。

手話番組「手話でコミュニケーション」【放送】毎週日・月

ニュースや話題、行事、お知らせを手話や字幕で紹介いたします。

※番組の放送時間や内容はホームページまたはデジタル放送の電子番組表(EPG)をご覧ください

情報をお寄せください!

いなばぴよんぴよんネット ☎ 0857-22-6111

※放送予定は予告なく変更することがあります。  
番組の放送時間は、ホームページでも紹介しています。  
<http://www.inabapyonpyon.net>



地元で書ける喜び

3月10日に行われたガイナ

瞬間です。何回見てもうるつときます」と、言水先生はその意義を強く感じています。「作品ができて、みんなとの絆が深まったときの喜びは、一人で作品を作っているときより大きい」と博田さん。みんなと一緒に願っている分、その喜びはひとしおです。

1レ応援書道パフォーマンスでは、昨年の優勝作品をたくさんのお客様に披露。淡墨で活き活きと書かれた「飛翔」の大文字で、ガイナ1レ鳥取の今シーズンの活躍を力強く後押ししました。

と、会場からは大きな拍手が生まれました。「地元でパフォーマンスができることはありがたく、書道を身近に感じてもらえて嬉しい」と博田さん。イベントの成功を喜ぶ一方で、応援してくれる地域のみなさんへの感謝の気持ちを忘れません。4月からは新入生を迎え、新たな東高書道部がスタートします。目標はもちろん日本一の東高の書道部だ」と感じられるような部を目指して、今日も練習に励みます。

「第5回全国高校生書道パフォーマンス甲子園」の優勝作品をガイナ1レ応援書道パフォーマンスで鳥取の人たちに披露

日本一に輝いた書道部 「よろしくお願ひします!」威勢のよい掛け声とともに、華やかな衣装を身にまとった女の子たちが、筆をとり、大きな紙に向かいます。今はまさに書道パフォーマンス。平成20年からは、全国高校生書道パフォーマンス甲子園が、毎年愛媛県で開催され、多くの観客を沸かせています。鳥取県立鳥取東高校は、現在部員27人。書道パフォーマンス甲子園には平成22年から出場し、3度目の挑戦となっています。

一人じゃできないから 書道パフォーマンス甲子園は、10人程度の選手が、6分間の中で、縦4レ×横6レの紙に作品を書き上げます。テーマがないため、作品はゼロから考えて作らなければなりません。「書を通して何を表現し、何に挑戦したいのか、そ

のコンセプトを決めるときが一番苦しいです」と語る言水先生。生徒に何度も問いかけ、作品にかける思いを明確にしていきます。「みんなが同じ気持ちというのは難しいけど、みんなで頑張りたい」と博田さん。中心となって部員を引っ張ったり、みんなを後押しする役になったりと、仲間の様子を把握しながらチームとしての成長を目指しています。試行錯誤を繰り返してできた作品を、体全体で表現する生徒たちの姿。これがパフォーマンス書道の一歩の魅力です。「エネルギーの爆発する

シリーズ **元気です**

133

書道パフォーマンス  
～一筆に込められた思い～

鳥取東高等学校書道部

第5回全国高校生書道パフォーマンス大会優勝



た昨年は、全国32校の中で、見事優勝を獲得しました。生徒たちを指導する言水さつき先生は、顧問を務めて10年になります。「書道を通していろいろな人と出会いますが、その中でつらい経験もしますが、それらをエネルギーに、たくましく生きていけるように」と、書道の技術だけでなく、生徒の将来のことも考えながら接しています。部長の博田理紗子さんが書道をはじめたのは高校に入学してから。部活動説明会で先輩たちが披露するパフォーマンスに憧れたことがきっかけでした。初めは見よう見真似だったという博田さんですが、仲間と切磋琢磨し、全国公募の作品展にも入賞できるようになり、昨年の甲子園にはメンバーにも選ばれました。



自分たちでパフォーマンスの演出を考え、練習に取り組みます